

2017年9月10日
テオリア第60号

定価 350円
毎月10日発行
定期購読料 年間 4000円
半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

θεωρία テオリア

発行 研究所テオリア
東京都千代田区内神田1-17-12
勝文社第二ビル101
TEL&FAX 03-6273-7233
ホームページ
http://theoria.info
E-mail: email@theoria.info

五輪災害と祝賀資本主義



日本軍「慰安婦」メモリアルデー・デモ＝8月13日

五輪災害と

祝賀資本主義

20年東京五輪に向けて、東京の再開発が急速に進められ、東京の路線価はバブル期を超えた。労働者の過労死をはじめ、あらゆる社会問題を引き起こす五輪・パラリンピックは「祝賀資本主義」と批判される。

現代の五輪は人権を制限する「共謀罪体制」下でなければ開催できない。安倍政権は「明治150年」キャンペーンと共に、20年五輪での新憲法・新天皇の「お披露目」を目標に政治日程を押し進めている。

今号で鶴飼哲（一橋大教員）が指摘している通り、それは20年五輪が1936年ベルリン五輪に最も似た五輪となることを意味する。（8月26日）

講座テオリア ロシア革命100年

ロシア革命の「意味」と現代世界

森田成也（大学非常勤講師）
9月16日(土)午後6時15分開場・6時半開始
文京シビックセンター3階会議室C
1000円 ※要申込

報告第66集

安保法施行下での安保状況

安倍政権下で進む軍拡

定価 500円 8月発行 湯浅一郎

紙面紹介

五輪災害と祝賀資本主義
—なぜ反東京オリンピックなのか 鶴飼哲…… 2～5面
辺野古新基地建設は必ず止められる 浦島悦子 6～7面
「慰安婦」メモリアルデー／反靖国…… 8面

研究所テオリア第6回総会記念シンポジウム

安倍一強政治の「終焉」

民主主義と社会保障のこれから

報告① ポスト・グローバル化時代の民主主義

田原 牧（東京新聞特報部デスク）

報告② 貧困の現場から社会を変える

稲葉 剛（つくろい東京ファンド代表理事）

日時 10月21日(土)午後1時開場 午後1時半～4時半

会場 文京シビックセンター4階ホール
(後楽園駅・春日駅下車)

参加費 一般1000円、会員500円

主催 研究所テオリア

五輪災害と祝賀資本主義

なぜ反東京オリンピックピックなのか

鶴飼 哲 一橋大学教員

2つのパレード

私がオリンピック反対という立場を鮮明にしたのは14年初め。雑誌インパクト（休刊）で「返上合理」という特集をした。

私自身はじめて不吉な予感を持ったのは12年8月20日。原発事故から1年余り。12年夏季五輪がロンドンで行われ、日本の女子サッカーチームが活躍した。1964年東京大会でも、女子バレー「東洋の魔女」が話題をさらったことを思い出す。女子サッカーが2位になったことがメディアで大きく取り上げられ、電通が組織したらしい銀座パレードに50万人が参加したと言われる。

当時の東京の街頭の情勢



さとし つかい

日本招致はなにかという予想だった。東京は都はかなり前のめりだった。民主党は没落傾向で、野田政権に代わって再稼働

路線にかじを切る。その中で五輪など考える余裕もなかっただろうし、政府は付き合い程度だったろう。

12年12月、都知事が石原慎太郎から腹心だった猪瀬直樹に代わる。同日の総選挙で自民党が政権復帰。猪瀬は過去最高の400万票を得て当選し、その勢いで「コンパクト五輪」キャンペーンを開始して恫喝紛いのツイッターを発し続ける。それでも、福島からわずか200キロほどの距離にある東京で、いくらなんでも五輪開催はないだろうと思っていた。

12年8月のパレードの目的は福島原発事故から人々の耳目をそらすこと。もうひとつは、東京招致のための都民の支持率の向上。石原慎太郎知事は、2016年東京招致にかなり力を入れていたが、都民の支持率が低く招致に失敗した。だから都の側は都民の支持率を上げる必要があると考えていたのだらう。

12年12月政権交代で第2次安倍政権になる。13年9月、フエノスアイレスの国際オリンピック委員会が20

年東京招致が決定する。繰返し思い出さないとけないのは、このときの安倍晋三の嘘の上になれわれの眼前にある現実のすべてが存在しているということだ。トランプの米大統領選勝利以降、フェイクニュースやポスト真実が語られるようになったが、13年9月の時点で福島原発が「アンダーコントロール」と宣言した安倍の虚言の歴史を直視するべきだ。「アンダーコ

ンクトロール」のままなのは日本の民衆の方で、福島第一原発ではない。

都政版森友問題と祝賀資本主義

築地市場豊洲移転問題にも五輪問題としてアプローチする必要はある。都市計画的には豊洲移転が実現しないとマッカーサー道路など戦後直後からの計画が実現しないと、石原時代から裏工作が続けられていた。



リオ五輪後の「銀座パレード」=16年10月

五輪財政は膨張の一途である。開催費用は立候補ファイナルの段階では7340億円。この金額を根拠に猪瀬都知事（当時）は「コンパクト五輪」を主張した。ところが、今年5月段階でも五輪問題としてアプローチする必要はある。都市計画的には豊洲移転が実現しないとマッカーサー道路など戦後直後からの計画が実現しないと、石原時代から裏工作が続けられていた。

ところが、今年5月段階で出ている数字は1兆8000億円。その分相も組織委員会が6000億円、国が1500億円、そして都が6000億円となっており、また4500億不足している。すでに開催経費が立候補ファイナルの2.5倍に膨れ上がっているが、それでもおそろくすまないだらう。五輪予算をどこからどこまで算定するのかもあいまいである。「3兆円の経済効果があるから1兆8000

00億円でも大丈夫」という考え方もあるが、その収益がどこに流れていくのかを問わない数字の一人歩きは無意味である。しかし、こういう性格の「フェイクデータ」がメディアに踊っている状況がある。

また、これから大きくなるのは、都による晴海選手村用地売却問題である。134ヘクタールの都の公有地を、三井不動産レジデンシャルなど大手不動産業者11社に、2016年末、東京都は129億6000万円円で売却した。これは国家的祝祭を奇貨として公的財産を民間資本に売り渡す、「祝賀資本主義」の典型的な事例である。

この件での住民監査請求は7月26日棄却され、今後住民訴訟が提起されている。この場所は一等地なので、1平方メートル当たり103万円が相場のところを、9万6730円で売却した計算になる。森友学園の8億円値引きどころではなく、しかもこちらの売却価格は公開されている。金額は秘密ではない。しかし、「日刊ゲンダイ」が値引き幅を評価した一般社団法人不動産研究所に調査報告書の情報公開を請求したところ、出てきたのは「ノリ弁」、つまり数字はすべて黒塗りの文書だった。都民ファーストの候補は7月2日の都議選で「ノリ弁やめます」と公約した以上、最初に公開しなければいけないのはこの文書のはずである。

祝賀資本主義の第一の特徴は、特別とされた機会に、特別な便宜が大資本に対してはかられて、公有財産が民間資本に破格の安値で売却される片務的な官民協同の利権構造にある。こういうことは他にも五輪関連工事でも多数起きているはずである。この構造を具体的に明らかにする必要がある。

リサイクルナショナリズム

1964年、私は小学4年生だった。1999年の国旗国歌法制定反対の運動のなかで「1964年の少国民」という文章を書いた。当時の「五輪災害」をもちに受けた世代といってもいい。最後は「がんばれ日本」で終わらなければいけない。つまらない作文を書かされたり、何か解らない競技の予選観戦に連れていかれてぼんやり見ていた思い出がある。

いまAC（公共広告機構）の一番評判の五輪広告は「ライバルは1964年」というものである。「あの頃の日本人に笑顔で負けるな。夢への大きさを、人思いやる気持ちで、心の豊かさで、絶対負けるな。ライバルは1964年」あの頃の日本人はまだいるのですか。（苦笑）

こうした動向を、私はリサイクルナショナリズムと名付けている。「夢よもう一度」という姿勢があまりにも露骨に現れている。私は小さくて分らなかつたけれど、64年にも反対運動がなかつたわけではない。そ

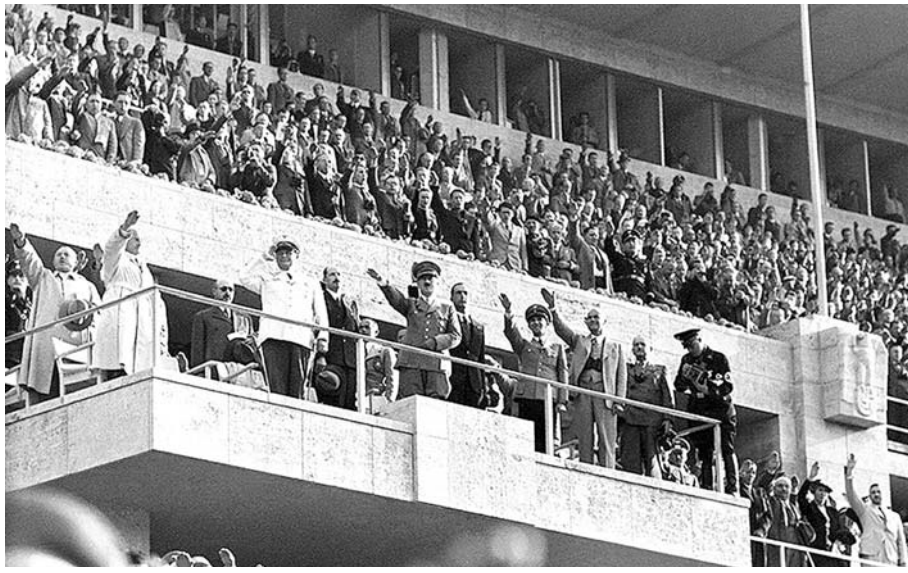
ち地方蔑視が根強くある。これも異常なことである。しかもこの件で都は地権者であり、許可者であり、施行者でもある。一自治体のみならず三役を演じてこの構造を作り上げたのである。交渉過程の透明性の確保にはいっさい配慮がなされなかつた。

ライバルはナチス五輪？

64年当時、日本の文学者たちは何を語ったか。『東京オリムピック文学者の見た世紀の祭典』(講談社文芸)

「優勝者のための国旗掲揚で国歌吹奏をとりやめよう」というフランドー提議案に私は賛成である。(……)

当時の曾野綾子の文章はともないうえで、オリムピックで物価が上がり、いかに生活が大変か、選手村で各国の女性選手がどのよう過ごしているか等、いろいろレポートを書いている。彼女の思想の変節も、あらた



1936年・ナチス五輪

「優勝者のための国旗掲揚で国歌吹奏をとりやめよう」というフランドー提議案に私は賛成である。(……)

しかし、近代五輪が1896年に始まって20年経たないうちに第一次世界大戦にわたったのだろうか。実は変わっていないのではないかと

64年経験者は「オリムピックは参加することに意義がある」という言葉を毎日耳にタコができるほど聞かされたものである。近代五輪の創設者であるピエール・ド・クーベルタンは、この言葉をどういう文脈で言ったのだろうか。第一義

緒されたと言われている、その前年彼がベルリン五輪準備の過程で出演したラジオ放送では、ナチスの選民思想と区別のつかない言辞を吐いている。これも石原と同じで、クーベルタンの思想は本当に変わったのか

「お・も・て・な・し」という標語のもと、外国からのアスリートと観客に接続するため、8万人ボランティア計画が進んでいる。

東日本大震災は民主党政権時代に起き、それ以来「がんばろう日本/福島」

軸とする国民統合の標語と化していることを忘れてはならないだろう。

晴海の再開発

の処分者を出すことになる人物の文章とは、一見思えない。石原は果たして変わったのだろうか。実は変わっていないのではないかと

安倍政権のもとで改憲が強行され20年大会が行われることになれば、東京五輪は過去のどの大会よりも1936年のベルリン大会、ナチス五輪に似たものになるだろう。

フランスの作家で20世紀前半の極右運動「アクショ・フランセーズ」の指導者シャルル・モーラスは、1896年ギリシャ王国での第1回五輪を若きジャーナリストとして取材したこ

「多様性と調和の実現」なもの具体例である。日本財団は障害者福祉に深くコミットしているが、その一方で、「南京大虐殺はなかった」という文書を世界中にばらまき、その歴史修正主義を告発する海外の研究者相手にスラップ訴訟を起している団体である。

大阪の障害者劇団・劇団「態度」の代表金満里さんは、パラリンピックによって障害者差別の根源である能力主義が障害者の世界に再度持ち込まれることに警鐘を鳴らしている。しかも

「復興五輪」|| 「改憲五輪」

「改憲五輪」|| 「改憲五輪」

晴海の再開発



おことわりリンクFBから転載

(3面から続く)
る。これでもなお、五輪は被災者を激励する「復興五輪」だと主張され続けている。
先日は組織委員会会長の森喜朗が、聖火の国内出発地は、沖繩か宮城になるだろうと発言した。64年も聖火は、当時米施政権下にあった沖繩から入った。今回も、聖火を沖繩の切り崩しにしようとしていることが分かる。聖火リレーは1936年に始まった、ナチス・ドイツの発明品である。アテネからベルリンまで聖火がいくつもの国を経て運ばれるあいだ、ナチスはそのコースを丹念に調査した。そしてそのデータは、39年9月に開始された戦争で使われた。聖火リ

レーは、きわめて具体的な戦争準備だったのであり、64年の開会式の際に書いた文章で、三島由紀夫もその点に触れている。当時は多くの人が知っていたこのことも、今はすっかり忘れられている。
招致が決まった時、「いきの初期被曝を追及するママの会」は、臓腑の底から絞り出すような反対声明を出し、「あなたたちの喜びは私たちの悲しみです」と断じた。状況は今も何も変わっていない。福島原発事故は継続している。除染・収束労働者は日々被曝している。住民の健康被害は拡大する一方である。
1月のおことわりリンクの集会でなすびさん(山谷労働者福祉会館)は、安倍「ア

ンダーコントロール」発言の後、作業のペースを速めるといふ重圧が収束作業の労働現場にかけられて、そのことが原因で命を失った人が何人もいると報告している。
今もなお十数万の人々が避難生活を余儀なくされている。今年3月末で帰還困難区域の多くが指定解除になり、避難者たちは帰らなければ支援を打ち切られる状況に追い詰められている。これが五輪のためだということ、皆分かっている。

五輪による

「復興」の再定義

2016年1月、「東京2020アクション&レガシープラン2016 東京2020大会に参画しよう」という長い題名の中

間報告が東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会から出された。驚いたことに、ここでは日本で計画・開催された五輪は常に「復興五輪」だったと言われている。日本み

ンダーコントロール」発言の後、作業のペースを速めるといふ重圧が収束作業の労働現場にかけられて、そのことが原因で命を失った人が何人もいると報告している。
今もなお十数万の人々が避難生活を余儀なくされている。今年3月末で帰還困難区域の多くが指定解除になり、避難者たちは帰らなければ支援を打ち切られる状況に追い詰められている。これが五輪のためだということ、皆分かっている。

最近報じられた痛ましいニュースとして、新国立競技場の工事現場で働いていた23歳の現場監督の過労自殺がある。自殺に先立つ月の残業は延べ200時間を超えていたと報じられている。五輪関連工事の現場はともも人不足で、経験なしの学生アルバイトでも、日当が2万円を超えている。これが「復興五輪」準備の、危険で過酷な現場の実態なのだ。

に二女子学生として参加した。大雨の中、女子学生はみな泣いていた。それからわずか21年後、同じ場所に建設された国立競技場でオリンピック開会式が行われる。43年に東条英機がいた場所に、64年には昭和天皇がいる。きょうのオリンピックはあの日につながり、あの日もきょうにつながっている。私にはそれが恐ろしい。祝福にみち、光と色彩に飾られたきょうが、いかなる明日につながるか、予想はだれにもつかないのだから、64年に

「復興」の再定義
2016年1月、「東京2020アクション&レガシープラン2016 東京2020大会に参画しよう」という長い題名の中

自殺する。今回自殺した23歳の現場監督の遺書と円谷の遺書は、根本的なところが似ている。いずれも使命を果たせなかった自分を責める、両親や関係者に謝っているのだから。このような状況に追い込まれて、なぜ怒れなかったのか。その心性のありかたが2人に死を選ばせてしまったのである。日本の戦争イデオロギートオリンピックの、危険で過酷な現場の実態なのだ。

「復興」の再定義
2016年1月、「東京2020アクション&レガシープラン2016 東京2020大会に参画しよう」という長い題名の中

このように「復興妨害五輪」が、さらに「改憲五輪」として、輪をかけた政治利用の対象となっていくのである。レガシープランについての詳細は、『反東京オリンピック宣言』(航思社)所収の阿部潔さん(関西学院大学教授)による論文「先

取りされた未来の憂鬱——東京2020年オリンピックとレガシープラン」を参照していただきたい。
安倍政権が目論む改憲日程の前倒しというシナリオは、この間の相次ぐスキヤンダルによってかなり揺らいではいる。しかしわれわれは最悪を想定して闘いを準備しなければならぬ。安倍政権が支持率を回復し、2020年まで政権を維持するとならば、間違いなく改憲は強行され、最悪のオリンピックになるだろう。

「民族の祭典」と「資本の祭典」
日本十新天皇の国際舞台でのお披露目という政治的祝祭となるのである。

五輪が明確に「資本の祭典」となったのは、商業資本が大規模に参入し、レーガン五輪と呼ばれた84年のロサンゼルス大会からである。ちなみにソ連と東欧諸国はこの大会をホイコップ(Celebration capitalism)という概念を提唱しているシュールズ・ホイコフはアメリカ出

「民族の祭典」と「資本の祭典」
日本十新天皇の国際舞台でのお披露目という政治的祝祭となるのである。

「民族の祭典」と「資本の祭典」
日本十新天皇の国際舞台でのお披露目という政治的祝祭となるのである。

祝賀資本主義の6つの特徴

祝賀資本主義の6つの特徴
五輪が明確に「資本の祭典」となったのは、商業資本が大規模に参入し、レーガン五輪と呼ばれた84年のロサンゼルス大会からである。ちなみにソ連と東欧諸国はこの大会をホイコップ(Celebration capitalism)という概念を提唱しているシュールズ・ホイコフはアメリカ出

祝賀資本主義の6つの特徴
五輪が明確に「資本の祭典」となったのは、商業資本が大規模に参入し、レーガン五輪と呼ばれた84年のロサンゼルス大会からである。ちなみにソ連と東欧諸国はこの大会をホイコップ(Celebration capitalism)という概念を提唱しているシュールズ・ホイコフはアメリカ出

祝賀資本主義の6つの特徴
五輪が明確に「資本の祭典」となったのは、商業資本が大規模に参入し、レーガン五輪と呼ばれた84年のロサンゼルス大会からである。ちなみにソ連と東欧諸国はこの大会をホイコップ(Celebration capitalism)という概念を提唱しているシュールズ・ホイコフはアメリカ出



ベルリン五輪の聖火リレー

祝賀資本主義の6つの特徴
五輪が明確に「資本の祭典」となったのは、商業資本が大規模に参入し、レーガン五輪と呼ばれた84年のロサンゼルス大会からである。ちなみにソ連と東欧諸国はこの大会をホイコップ(Celebration capitalism)という概念を提唱しているシュールズ・ホイコフはアメリカ出

祝賀資本主義の6つの特徴
五輪が明確に「資本の祭典」となったのは、商業資本が大規模に参入し、レーガン五輪と呼ばれた84年のロサンゼルス大会からである。ちなみにソ連と東欧諸国はこの大会をホイコップ(Celebration capitalism)という概念を提唱しているシュールズ・ホイコフはアメリカ出

祝賀資本主義の6つの特徴
五輪が明確に「資本の祭典」となったのは、商業資本が大規模に参入し、レーガン五輪と呼ばれた84年のロサンゼルス大会からである。ちなみにソ連と東欧諸国はこの大会をホイコップ(Celebration capitalism)という概念を提唱しているシュールズ・ホイコフはアメリカ出



メキシコ五輪での「反乱」

2024年の大会はプタペストもハンブルクも立候補を取り下げ、残ったのは

メキシコ五輪での「反乱」

メキシコ五輪での「反乱」

メキシコ五輪での「反乱」

メキシコ五輪での「反乱」

メキシコ五輪での「反乱」

ある。第2に、さきほど晴海選手村の土地売却問題で見たように、祝賀資本主義においては片務的な官民協調が行われる。それは公的な資産や資金を民間資本・セネコンに流し込む、利権構造の全面展開となる。

3番目に、祝賀資本主義は商業主義の徹底化を特徴とする。前述の通り84年口ス大会で民間資本の全面参加が始まって以来、経済のネオリベ路線が五輪にも貫徹されていく。こうして五輪は、各国の大企業にとつて、巨大なビジネスチャンスの意味することになった。

第4に、祝賀資本主義は、セキュリティ産業の全社会領域への徹底的な浸透を必然的に伴う。この領域ではイスラエルが先端的であり、東日本大震災・福島原発事故の際イスラエル国防軍医療班が南三陸で医療活動に従事したことをきっかけに、日本にも本格的な浸透が進んでいる。現在、日

本とイスラエルは国家レベルでも急速に接近しており、2020年のセキュリティ対策の根幹部分は、イスラエル企業が担うことになることが予想される。

5番目に持続可能性、環境への配慮、多様性、人権等の進歩主義的なモチーフが流用されていくことが祝賀資本主義の特徴として挙げられる。われわれの世代は64年と70年大阪万博を経験したが、万博のテーマは「人類の進歩と調和」だった。「調和」という言葉は今も使われているが、「多様性」は多文化主義以降の標語である。いま「多様性」という言葉は民族や人種だけでなく、ジェンダー、セクシャリティ、心身の条件

「五輪」というグローバル・ファシズム

「五輪」というグローバル・ファシズム

「五輪」というグローバル・ファシズム

「五輪」というグローバル・ファシズム

ある。駅にエレベーターがないところも多い。五輪をきっかけに都市環境がパリアフリカ化することに反対することはできない。本来五輪に関係なく実現していなければならない課題を、このようにマイノリティの国民統合のために利用するメカニズムが働いている。そのことを明らかにし、適切なかたちで批判していくことが求められる。

ジェンダーに関してはそのも64年にすでに「女性活用」が進められていた。コンパニオンになった女性たちは上流階級出身の英語が堪能な人たちで、のちにプロのスポーツ選手が元コンパニオンの女性と結婚して話題となった経緯がある。

6番目に、祝賀資本主義は社会的スペクタクルの極限形態である。ギー・ドゥボールは『スペクタクルの社会』(1967年)で、資本主義は必然的にスペクタクルを生み出すと主張した。彼によれば商品とスペクタクルの生産は、資本主義体制において外延を等しくする。スペクタクルによってプロレタリアートは自分たちの疎外を忘れるよう仕向けられるが、それは分断を固定化したままの社会統合であり、観る側と観られる側の絶対的な断絶を前提とした、労働時間の外部における疎外のいっそうの拡大・深化である。

パリとロサンゼルスだけである。もはやこの規模の都市でないと五輪はできないのである。64年当時の東京は、当時のアメリカの都市や現在の東京を10とする2割の経済規模だったが、そのような規模の都市では、現在は五輪の開催は不可能なのである。

24年はパリになろうとしているが、フランスでは15年の一連の暴力的な事件以降、非常事態が解除されていない。ある意味で「非常事態」がすでに敷かれていることがアピール要因となり、「テロリズム」に反対する人類の団結を示す機会として組織されていくことになるのではないのか。IOCは28年に立候補都市がなくなることを危惧して、24年パリ大会、28年ロス大会を同時決定しようとしている。このように、国際オリンピック体制は構造的な危機に陥っており、おそらく今世紀末まで存続することはないだろう。

最後に「五輪」の名の下に踏みこまれるものを、あらためて確認したい。東京地域住民の生活権全般が脅かされる。先日でもJR渋谷駅で鉄骨が落ちる事故があった。工事だらけで行くたびに変わっている。突貫工事であり、熟練の労働者が雇われているなか、労働条件は悪化する一途であることが容易に想像できる。職場の安全は軽視され、深刻な労災がいつ起きるか分からない状況である。都

の中心部からの野宿者の排除、ジェントリフィケーションによる住環境の破壊はいっそう加速化するだろう。

共謀罪体制のもと、列島住民全体の基本的な人権が脅かされる。とりわけ労働者の諸権利が蔑ろにされ、「負のレガシー」を相続しなければならぬ将来の世代の決定権もあらかじめ奪われる。五輪で巨大施設を作れば大会後に維持費だけで巨大な費用が掛かることは長野五輪後の状況を見ても明らかである。リオでも五輪のために建設された施設がすでに廃墟化している。将来の世代にこんな迷惑なレガシーを遺贈することが許されるはずがない。

少数民族の自己決定権が侵害される。2010年のカナダのバンクーバー冬季五輪では、先住民の共同体が賛成派と反対派に分断され、反対派の女性リーダーが逮捕・投獄されて獄死した。日本でもアイヌと沖縄が置かれる状況に注意する必要がある。アイヌ民族には、「多様性と調和」をアピールするため、五輪開会式への協力が求められている。08年G8洞爺湖サミットの時に、アイヌを先住民と認める国会決議と引き換えに協力が求められたのと同じ構図である。そして先に述べたように、聖火リレーによる沖縄の分断も画策されている。沖縄はスポーツが盛んなので、沖縄の選手が五輪で活躍する

う。五輪特措法のようなものが、これからさらに出てくるのではないかと危惧もある。国民統合のために、五輪をさらに徹底的に活用する方向へ、体制の力学は動いていくだろう。

国会で反対の姿勢を表明しているのは山本太郎一人であり、都議会には一人もいない。すでに翼賛体制なのである。2020年はまた、住民管理制度の徹底化にとつてもターゲットイヤード位置付けられている。日本在住者には、五輪観戦の際、マイナナンバーの提示を求めるという構想まである。国際オリンピック体制は、もはやグローバル・ファシズムとわりなく活動。著書「参加することに意義がある」という言葉があれほど繰り返されたのではないのか。

メディア環境の違いは決定的に大きい。64年、多くの小学校で教室にテレビが設置され、生徒たちは揃って五輪の放映を見た。今はスマホやワンセグで中継を見ることができ、至る所で観客の個人化が進み、それだけいっそう強烈に統合が組織されることになりそうである。観客もまたスペクタクル化され、そのイメージがリサイクルされることになるだろう。

最後に、安倍首相自身が、共謀罪がないと五輪ができないと言った以上、オリンピック反対運動が最初に弾圧の標的になるのではないかと危惧を強く持っている。テロ対策はもちろん飛躍的に強化されるだろう。

本的人権は無視される。これは民衆に対する非常に体系的な攻撃である。オリンピック自体はよいもの、あるいは中立的なものだが、安倍が政治利用することが問題という認識は決定的に不十分である。いまやオリンピック自体を直視して、実践的な批判を組織していかなければならない。

(7月30日、国連・憲法問題研究会講演から)

鶴岡哲 1955年生まれ、一橋大学大学院言語社会学・思想。「2020オリンピック災害おこりネットワーク」(東京オリンピックおこりネットワーク)で活動。著書『抵抗への招待』(みすず書房)、『反東京オリンピック宣言』(共著、航思社)他

白川真澄 1000円十税

石井紀子・平野靖識・中川憲一・大森武徳・白川真澄 600円

左翼は再生できるか

戦後日本の政治攻防と社会運動

白川真澄 1000円十税

講座・三里塚闘争50年

石井紀子・平野靖識・中川憲一・大森武徳・白川真澄 600円

論集5 「分断」から連帯の社会へ

宇都宮健児・大井赤亥・田中徹二 1000円

論集4 「負け組」をつくらない社会の創り方

藤田孝典・竹信三恵子 1000円

論集3 徹底検証 安倍「成長戦略」

水島希・宮崎礼二・金野正晴・金子文夫 1000円

研究所テオリア

暴力を尽くしながら工事は進んでいない 辺野古新基地建設は必ず止められる

浦島悦子 島ぐるみ会議名誉局長

炎天下で続く

ゲート前座り込み

沖縄の夏の陽射しは強烈だ。今年はそのわけ、例年より2〜3度も気温が高く、台風も来てくれない(台風は被害もたらすが、恵みの雨、海水温の調節など、島にとってなくてはならないものなのだ)ため、陰一つないキャンプ・シュワブゲート前の座り込みは過酷を極める。朝7時半集合、8時に集会開始後、気温はぐんぐん上がり、沖縄戦体験者を含め年配者の多い参加者たちは、目深にかぶった帽子と日傘で自衛しても、熱中症で体調を崩す人が出る。

せめて、一時休憩できる場所を作ろうと、簡易テントを張ろうとした途端、機動隊が30人も出てきて強制撤去(機動隊は基地の中に常時待機している)。怒った参加者たちが、二度目には撤去されないようテントを押さえたところ、買ったばかりの新品テントは機動隊によってあえなく壊されて

まで引き起こした(その後、女性は回復したが後遺症が残り、告訴)。それでも、年配女性の多い参加者たちは、目の前にいる孫のような年の機動隊員に向かって、沖縄の歴史や沖縄戦のこと、「あなた方(あなた)を含めて」子や孫たちの未来を思う気持ちを諄々と説いて聞かせる。大方は無表情だが、中には辛そうに表情が明らかで、涙を浮かべている隊員もいる。彼らの胸の中には、葛藤が渦巻いているのだろう。私も週一回、ゲート前集会の担当をしているが、出動した機動隊員たち「なぜ、あなた方のおじいちゃん、おばあちゃんのような人たちが、ここに座り込み続けているのか、考えてほしい。命令に従わざるを得ないとしても、1人の人間として何かを感じてほしい」とマイクで訴えている。

陸上では機動隊と民間警備会社(アルソック)、海上では海上保安庁と民間警備会社(マリンセキュリティ)、地元漁民を雇った警戒船による膨大な警備費(1日に何千万円と言われる血税)を使い、抗議する市民に暴力の限りを尽くしながら、しかし、実際の基地建設工事は政府の思惑通りには全く進んでいない。連日、運び込まれる石材や資材の多くは基地内にストックされているようだ。

行き詰まっているのは

政府・防衛局

昨年12月、最高裁が、翁長知事の辺野古埋め立て承認取り消しについて国が沖縄県を訴えた「違法確認訴訟」で県敗訴の判決を出したあと工事が再開された。今年3月末で仲井眞前知事による岩礁破壊許可が期限切れとなった後も政府は再申請せず、4月25日、菅官房長官は、辺野古新基地建設の「埋め立て」に着工したと発表した。正確には「埋め立ての第一段階となる護岸工事に着手した」という

ことだが、政府の発表を受けてマスメディアも「着工」を大々的に宣伝した。しかし実際の現場は、砂浜に置かれたセシモニール用テントの前で、碎石を入れた網袋5個をクレーンで波打ち際に置いただけ。その後も工事は遅々としており、最初に手掛けた大浦湾側のK9護岸は、「着工」から約4カ月を経た現在、320メートル予定のうち100メートルで止まっており、しかも、最近明らかになったところによると、これは仮設であり、いずれ撤去されるものだという。現在、辺野古崎を挟んで反対側(辺野古側)の海岸で仮設道路の工事が進められているが、これらは当初の工程を無視したもので、とにかく目につきやすいところで工事が進んでいると県民・国民に思わせ、あきらめを誘うためだと思われたいのだ。



3選出馬を表明した稲嶺名誉市長

型特殊掘削船・ボセイドンの主な仕事は、海底の地形を調べる音波探査だったと思われ。大浦湾の自然そのものが「ここに基地」巨大構造物を造るのは無理だよと伝えていると同時に、工事を進めるには県知事や名護市長の許可が必要なものがたくさんあり、これらの権限にも阻まれて、沖縄防衛局は苦慮し、行き詰っているのは確かだ。それを裏書きするように、8月上旬、沖縄防衛局が当初計画していた大浦湾の海上作業ヤード(海底に石を敷き詰めケーソンなどを仮置きする場所)を取りやめたこと、終わったはずのボーリング調査を新たに19か所計画していることが相次いで明らかになった。

「どの故郷にも戦争に 使う砂は一粒もない」

辺野古新基地建設を止めるための大きな力となり、私たち地元が勇気をもっているのが、2015年に結成された辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会(阿部悦子・大津幸夫共同代表)の活動だ。辺野古・大浦湾の広大な埋め立ては膨大な量の埋め立て土砂を必要とし、それがなければ埋め立てはできない。その土砂搬出が計画されている西日本6県(鹿児島、熊本、長崎、福岡、山口、香川)と、埋め立て用ケーソン建造計画のある三重県を中心に組織され、現在までに12県18団体(ほか個人)が土砂搬出、ケーソン建造に反対して、今年5月末に北九州市小倉で開催された全協の第4

このような実状は座り込み現場で日々報告され、私たちは事実を正確に知ることができ、安倍政権の脅しや見せかけに騙されず、たたかいを継続することができている。この無謀な基地建設は必ず止められると、現場はますます意気軒高だ。自然を侮る者は必ず自然にっぺ返しされる。しかし、それを知らない(知りたくない)安倍政権は、来年2月の名護市長選、11月の県知事選で首長をすげ替



機動隊派遣住民訴訟集会 (記事7面)



県民大会＝8月12日

回総会に、私は加盟団体の一員である「島ぐるみ会議名護」の代表として参加した。総会のあとの学習会で、全協顧問の湯浅一郎さんは、沖縄県が策定した外来生物侵入防止条例(土砂条例)を活用し、生物多様性国家戦略・地域戦略に依拠して搬出・搬入両県の相互連携で土砂搬出を止めようという問題提起をされた。

力した沖縄県議会議員と、県内各地の島ぐるみ会議に働きかけ、7月、湯浅さんを講師に県議対象及び沖縄県南部と北部の3カ所で学習会(一般向け学習会は北上田さんも講師に加わった)を持つことができた。

「我々はあきらめない！」

8月12日午後、那覇市の奥武山陸上競技場で開催された「翁長知事を支え、辺野古に新基地を造らせない県民大会」(オール沖縄会議主催)。真夏の、そして1日で最も暑い時間に、それに負けない熱気で4万5千人の人々が、炎天の青空を突くように「我々はあきらめない」のメッセージカードを一斉に掲げ、翁長知事、稲嶺名護市長らとともに、新基地建設阻止への不退転の決意を改めて示した。

対峙して頑張っている翁長知事を地元から支えようと挨拶。翁長知事は、「承認撤回の時期を私の責任で決断する。ヌチカシリチバラナヤサイ(命の限り頑張るましよう)！」と呼び掛けた。昨年10月の高江での不当逮捕から5カ月以上に及ぶ勾留のあとようやく釈放され、公判中の山城博治・平和運動センター議長(現場には行けないが、全国各地での講演に飛び回っている)も登壇し、「政府の弾圧をはねのけ、今こそ団結しよう」と拳を上げた。普天間基地所属のオスプレイが、昨年12月の名護市安部海岸への墜落に続き、1週間前、オーストラリア沖で墜落事故(3人が死亡)を起こした直後でもあり、配備撤回・飛行禁止と、普天間基地の即時閉鎖・撤去を要求する特別決議も採択された。

「完成」したとして「北部訓練場帰還式典」を大々的に行ったが、実際には工期を大幅短縮したずさん工事のため、使い物にならない状態だった。7月1日から再開され、再び住民らによる抗議・阻止行動が行われているが、米軍は同日から新たなオスプレイパッドの運用を開始。東村が要請していた事前連絡もなく始まった離着陸訓練に、高江住民は、騒音の増大や、未完成での使用による事故への不安を募らせている。安部の墜落機体も、海中には未だに残骸が残り、原因究明もされていない。

どの国も買わない欠陥機オスプレイを高値で買わせる日本国「自衛隊」、先の見通しもないまま膨大な税金を注ぎ込まれている辺野古新基地建設、まるで住民など存在しないかのように逃げ場のない離島(宮古・八重山・奄美等)に次々と計画されている自衛隊基地を含め、国民は自分たちの払った血税の使われ方をもっと知り、厳しく精査すべきだ。軍事予算が増えれば、教育・医療・福祉はますます貧困化する。

沖繩を再び「捨て石」に、日本全体を戦争に巻き込み、ものの言えない暗黒社会へと歴史を戻りさせようとする史上最悪の安倍政権を、全国の皆さんとともに一刻も早く退陣に追い込みたい。

来年2月の名護市長選に三選出馬を決意した稲嶺市長は、政府と

要請」をせせら笑うように、オスプレイは、沖繩はもちろんで、全国どこでも飛び回っている。東村高江のオスプレイパッド建設工事(昨年12月に安倍政権は、

日本全体を戦争に巻き込み、ものの言えない暗黒社会へと歴史を戻りさせようとする史上最悪の安倍政権を、全国の皆さんとともに一刻も早く退陣に追い込みたい。

8月25日、「都民が働いて納めた税金が沖繩で弾圧を行う警察官への給与に、警視庁機動隊沖繩への派遣は違法」住民訴訟大集会」が都内で行われ、188人が参加した。主催は警視庁機動隊の沖繩への派遣中止を求める住民監査請求実行委員会。

沖繩の辺野古、高江の基地建設反対運動を弾圧するために東京、千葉、神奈川、愛知、大阪、福岡から機動隊が派遣。機動隊は辺野古、高江の現場でヘイトスピーチ、暴行、不当逮捕の無法をほしほししている。機動隊派遣中止を求め、6都府県で住民監査請求が行われた。だが、全て却下された。

しかし、ミサイルをミサイルで撃ち落とせるのか。戦争ではなく対話を。中国包囲網作りを進めながら、対北朝鮮で中国の力添えが必要だと言っている。敵対

高江には派遣された機動隊は暴力の限りを尽くし、住民を逮捕し、圧力をかけてきた。派遣元の都府県で違法性を訴えることが機動隊派遣を抑制する。高江では、機動隊の力を使って6カ所のヘリパット

インフォメーション さようなら原発 さようなら戦争 全国集会 9月18日(月)12時半開会/代々木公園B地区/「さようなら原発」一千万署名市民の会 9月19日(火)午後6時半/国会正門前/総がかり行動

機動隊沖繩派遣は違法だ 東京住民訴訟で集会

東京では、昨年10月17日、申立人314人が97人の弁護士代理人によって、東京都監査委員会に対して、派遣機動隊への給与支払いが違法・不当な公金支払いに当たると住民監査請求を申し立てた。だが、東京都監査委員会は意見陳述の機会を与えず、11月19日付けで門前払いで却下した。東京都では、昨年までの8年間で住民監査請求125件中、監査実施は11件に過ぎない。また、福岡では東京での却下後、一旦決まっていた住民の意見陳述期日が取り消され、却下となった。あまりにもひどい監査請求却下に対して、東京の184人の原告、弁護士62人で住民訴訟を12月20日東京

地裁に提訴。続いて、福岡、愛知でも住民訴訟が提訴された。東京の裁判は第1回3月8日、第2回6月21日に傍聴席を埋めて行われた。第2回裁判で、裁判長は派遣運用の実態を審理することを示唆。運動を広げていくために集会が開かれた。 弁護団からの裁判の説明に続き、辺野古基地建設工事は違法であり加担できないと土砂運搬作業を拒否する全国港湾労働組合連合会(全国港湾)の諸見方・辺野古新基地建設反対対策委員会事務局局長が連帯あいさつ。「自衛隊の民間港利用が港湾労働者を脅かしている」と土砂運搬に反対する立場を明らかにした。

私が起訴された裁判は次回8月28日。裁判で問われるのは政府そのもの。屈するわけにはいかない。先日、も座り込んでいた人が車に引かれて入院。命を奪うような弾圧があるかもしれない。ファシズム政権とたたかい未来を切り開く」

続いて、宮里さん、山城さんによるトークセッションが行われた。 宮古島出身の宮里さんは、弁護団を務めた76年喜瀬武原闘争裁判、大田昌秀知事代理署名訴訟などについて語った。山城さんは高江、辺野古を上回る脅威が宮古・八重山などに押し寄せている。薩長が日本をつくったと明治150年のプロパガンダが行われようとしているが、私たちの時代を創っていく」

反安倍の団結を

続いて、山城博治さん(沖繩平和運動センター議長)が講演。全国での連帯に感謝している。辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会が各地で辺野古埋め立てに一粒の土砂も使わせないと反対している。

安倍政権は、佐賀配備予定のオスプレイだけで3400億円も使い、北朝鮮を力で封じ込めるとしている。

高江に派遣された機動隊は暴力の限りを尽くし、住民を逮捕し、圧力をかけてきた。派遣元の都府県で違法性を訴えることが機動隊派遣を抑制する。

核攻撃が一発あれば終わりに沸いているが、一発で観光客がゼロになる。米軍基地が経済の阻害要因。

安倍改憲を止めていく。森友・加計問題が示すように、生活そのもので世論は動く。私たちは反基地原理主義と言われることもあるが、総選挙では反安倍の大同団結を。

裁判所に少なくとも事実を見て実態を見て判断することを求める。実態を明らかにし、不法な警察力を抑止したい。そのためには法廷内だけの闘いでは難しい。

今後の運動として傍聴、裁判官への葉書運動などが呼びかけられた。

第5回8・14日本軍「慰安婦」メモリアル・デー

「慰安婦」も JKビジネスも同じ性暴力



8月13日、第5回8・14日本軍「慰安婦」メモリアル・デー語り始めた被害者たち。日本軍「慰安婦」、AV出演強要、JKビジネスが都内で行われ、210人が参加した。日本軍「慰安婦」問題解決全国行動、

戦時性暴力問題連絡協議会が共催した。91年8月14日に韓国に日本軍「慰安婦」被害者の金学順さんが「慰安婦」とされたことを初めて告白した。8月14日前後、日本軍「慰安婦」メモリアル・デー行動が各地で行われた。

集会で北原みのりさん（作家）は「JKビジネスも日本軍『慰安婦』もAV出演強要被害者も被害者が声を上げることで、初めて認識された。売春防止法60年だが、風営法で男たちは安心して買春している」と性暴力が正当化される日本社会の現状を指摘。

JKビジネスなど性暴力被害や虐待を経験した少女たちの自助グループの運営を行っている仁藤夢乃さん（Go!Go!代表）は「居場所がない少女たちに街で声をかけてくるのはスカウトと買春男だけ。先日『私たちは「買われた」展』を企画して性暴力の被害を受けた14〜26歳の24人の証言や写真を展示した。これは少女たちとインドネシア元「慰安婦」写真展を見に行ったのがきっかけ。それまで慰安婦問題を知らなかったが、少女たちは写真を見て私たちと同じ目をしていて共感。自分たちも写真展をしたいと開催することになった。

お金が介することで暴力を正当化する人がいる。批判する側からネットで慰安婦と同じだと批判されて、初めて慰安婦問題を知り、調べてみて同じだと思っただ。好きで売春していると性暴力をなかつたことにはいい層は「慰安婦」をなかつたことにはいいのと同じ層。

この問題は子どもの側の問題でも、男女の問題でもない。性を売りたい大人と性を買いたい大人によって、子どもが商品化されている。男に買うというべき。AV出演強要被害者を支援する田口道子さん（ポルノ被害と性暴力を考える会（PAPS）事務局長）は、「13年に被害者から初めて相談があった時、私たちも初めてで連絡が途中で切れてしまった。

15年、裁判で勝訴してメディアで取り上げられ、相談も増えた。被害者に寄り添い、ストーリーをつくらない、傾聴・個別化・自己決定を基本にしている。AV業者と渡り合う支援後にパレードを行った。

者がこれまでにいなかった。業者は友達にばれるぞと被害者を脅すが、実際にばらすのはAV業者」

日韓合意は無効

尹美香さん（韓国挺身隊問題対策協議会共同代表）は「91年8月14日、金学順さんが声を上げたことが韓国女性運動に大きな変化をもたらした。他の「慰安婦」被害者の声につながった。アジア連帯会議を開き、各国の被害者が集まった。女性の人権問題という認識が大事。慰安婦被害者の声がボスニア紛争での被害女性の声につながった。家長長制の強い韓国社会も変わらないといけない。ベトナム戦争での性暴力の被害を行った加害者コミュニティの一員として、ナウィ基金からベトナム、パレスチナ、シリアの女性への支援連帯をしている。韓国内の米軍基地村の女性たちと交流し、語らなければと促し、彼女たちも声を上げた。

被害女性が声を上げるのに対して、否定と名誉棄損が付きまとう。ベトナムの被害女性を韓国に招いたが、行く先々でベトナム参戦戦友会による妨害があった。

日韓合意は人権問題を経済的取引にするもの。日本政府は被害者の声に耳を傾け、被害者の権利回復を。未来世代への継承を」

討論に続いて、集会終了後にパレードを行った。

「代替わり」過程で天皇制と戦争を問う

8・15反「靖国」行動

天皇代替わりと安倍改憲が進められる状況の中、「代替わり」過程で天皇制と戦争を問う8・15反「靖国」行動が都内で行われた。

8月11日、集会「天皇制と戦争・アキヒトにも責任はある！」が100人の参加で行われた。

集会では伊藤晃さん（日本近現代史研究）が講演。

「去年8月8日の天皇ヒデオメッセージは、自らの『治世』を総括して、自ら作り出した天皇モデルを、はつきり提示する。『国民の幸福をひたすら祈る』天皇として国民一体を作り出す。彼は伝統・権威をよりどころにするだけではなく、自身の自分を押し出し、近代天皇制は天皇の個人的意思を想定していない。国民国家の天皇にならなければならなかった。天皇は伝統・血統に根拠を置き、恣意性・偶然性が入り込まない非人間的な存在でなければならぬ。

アキヒトはこれと現行憲法を踏み越える行為を行った。彼は万世一系という皇室の伝統を非常に重視する。天皇の徳で人々の福祉を現実にしよと考えている。国民の内面に入りこむことによって、国民一体を作り出すのを理想としている。天皇と天皇が作り出す

国民は対の関係にある。昭和天皇の1946年1月1日の宣言を思い出しているに違いない。

天皇はその『民主主義性』で戦後知識人の多くを飲み込んでいた。彼らにとって天皇の存在は前提になってしまっている。

安倍政権が言う『価値観を共有』する米国などとの協調が天皇の考える平和国家のモデル。戦後日本を過去に延長して、近代日本の基調を求める。明治維新後、早い段階から列強の支配体制への参加を追求していた。一時単独行動して米国と対立したのは失敗だったと総括。米国の列強体制に参加し直す。天皇は満州事変以降の一次的逸脱が悪いと考えている。

天皇が熱心に慰霊しているのは満州事変以降の戦没者。彼らの犠牲で「正道」に戻ったと感謝する。本来、国家・天皇にある責任を『逸脱』の責任者に負わせ、過去を葬る。

世界の戦争が『日本の平和』という動きだ。代替わりと改憲が連動し、明治150年と代替わりが一致する。もう一度歴史的にとらえる必要がある。

南さんは「靖国神社では朝鮮独立のために戦った義兵を殺害した日本兵戦死者が称えられている」

高橋さんは「朝鮮半島で戦端が開かれることに反対する。安倍晋三が最も尊敬する吉田松陰は『幽囚録』

和、沖繩の戦争が『本土の平和』となる構造がある。天皇の説く戦後の平和と繁栄の言葉の中に戦争責任はない。アジア民衆が抜け落ちている。アジア民衆の本への抵抗がアキヒトの歴史認識にはない。

第二次大戦後、血みどろの数年間だったアジアに日本は無関心だった。日本はアジアの軍事情勢を作り出す大國。9条がアジアの現実の中で生きるかどうか現実への政治力。沖繩の闘争が9条を守る現実形態。天皇と安倍のずれによりどこを求めてはいけない」

15日は反靖国デモが行われた。出発前の集会では安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京などから発言。

続いて、1600人の参加者が雨の中、靖国神社に向けてデモ。今回も右翼による妨害があったが、昨年より少なかった。

デモは「戦争で死ぬことを賛美するな」「ナルヒト新天皇はいらない」と声を上げた。

明治150年の前半は植民地帝国内の戦争をして負けた70年。後半は植民地主義を反省せずに来た70年だった。靖国は生き続ける植民地主義そのもの」

アピール、コンサートの後、靖国神社に向けてキャンドルデモが行われた。



東アジアの視点から『明治維新150年』とヤスクニを問い直す

キャンドル行動

8月12日、平和の灯を！ヤスクニの闇へ キャンドル行動「東アジアの視点から『明治維新150年』とヤスクニを問い直す」が都内で行われ、300人が参加した。主催は実行委員会。

て、原武志さん（放送大学教授）、南相九さん（韓国・東北アジア歴史財団研究員）、高橋哲哉さん（東京大学教授）によるシンポジウムが行われた。

原さんは「今回の天皇代替わりで想起されるのは大

8月12日、平和の灯を！ヤスクニの闇へ キャンドル行動「東アジアの視点から『明治維新150年』とヤスクニを問い直す」が都内で行われ、300人が参加した。主催は実行委員会。

て、原武志さん（放送大学教授）、南相九さん（韓国・東北アジア歴史財団研究員）、高橋哲哉さん（東京大学教授）によるシンポジウムが行われた。

原さんは「今回の天皇代替わりで想起されるのは大